

事例（羽田良 光さん）の 100 文字アセスメント



私（羽田良光）は・・・

(字)

※100 文字アセスメントについて

目的	・ 個別支援計画を作成する際、大切な事の 1 つとして「本人主体、本人目線」があります。 しかし、作成をしていく段階で、知らぬ間に支援者目線や支援者主体となったり、課題克服の計画になってしまうことが起こり得ます。それを防ぐ方法として 100 文字アセスメントがあります。
活用方法	・ ご本人の想いや核心を捉え、支援の軸（本質）を定めることにつながります。 ・ ニーズ整理や個別支援計画を作成する際に迷ってしまった時には、100 文字アセスメントに立ち返り考えてみます。
留意点	・ ご本人の解決したい課題・困りごと等の「思い」を本人の視点で 100 文字程に要約、アセスメントします。 ・ 主語は「私」「僕」「俺」等で始めます。 ・ アセスメントから知り得た情報（思い、夢、ストレングス、困りごと等）をご本人の言葉をそのまま使って作成します。 ※作成時に、本人の言葉を容易に変換してしまうと、その意味合いや思いまで変わってしまうため、本人の言葉はそのまま使います。

注意：以下は、書き方の例であり、事前課題の事例のものではありません。
(平成 30 年度サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者指導者養成研修の資料より抜粋)

- 例① ぼくは、入院して 10 年目。日常家事はうまくできないけれど、退院後はお金を自由に使ったり、人を気にせず自分のペースで生活したいので、アパートで一人暮らししたい。でも保証人もいないし……。それにどんな一人暮らしになるのかな？ (108 字。精神障害、統合失調症のある方)
- 例② 私は、病院や施設に入らずに自宅で介助者のサポートを受けながら生活していきたい。でもこのままだと夫の体調やお金の負担も心配。だれか私を介助してくれる人が来てくれないかしら……。 (87 字。身体障害、肢体不自由のある方)